

## 研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
A-169	24-410	手稲溪仁会病院 白坂知彦 独立行政法人国立病院機久里浜医療センター松下幸生
<b>題名 (原題/訳)</b>		
A Randomized Clinical Trial of Prolonged Exposure Therapy With and Without Topiramate for Comorbid PTSD and Alcohol Use Disorder PTSD とアルコール使用障害の併存に対するトピラマート併用および非併用長期曝露療法のランダム化臨床試験		
<b>執筆者</b>		
Sonya B Norman, Matthew T Luciano, Kaitlyn E Panza, Brittany C Davis, Michelle Lyons, Brian Martis, Scott C Matthews, Abigail C Angkaw, Moira Haller, Katharine Lacefield, Arthur L Brody, Paula P Schnurr, Steven L Batki, Tracy L Simpson, Robert M Anthenelli		
<b>掲載誌</b>		
Am J Psychiatry. 2025 May 1;182(5):452-462. doi: 10.1176/appi.ajp.20240470. Epub 2025 Mar 19 DOI: 10.1176/appi.ajp.20240470		
<b>キーワード</b>		<b>PMID</b>
アルコール、心的外傷後ストレス障害 (PTSD)、物質関連および依存症、トピラマート		40103353
<b>要旨</b>		
<p><b>目的：</b> 心的外傷後ストレス障害 (PTSD) とアルコール使用障害 (AUD) はしばしば併発する。長期曝露療法 (PE) は PTSD の有効な治療法であるが、併発する AUD 患者では効果が小さい。トピラマートはアルコール使用と PTSD 症状の軽減に効果がある可能性がある。本二重盲検プラセボ対照外来臨床試験では、12 回の PE 療法とトピラマートまたはプラセボを比較した。</p> <p><b>方法：</b> PTSD+AUD を患う米国退役軍人 100 名 (平均年齢 45 歳 [SD=12]、男性 84%) をランダムに割り付け、PE+トピラマート (最大 250mg) または PE+プラセボによる 16 週間の治療を行い、治療後の評価および 3 か月と 6 か月の追跡調査でアルコール摂取と PTSD の重症度への影響を調べた。</p> <p><b>結果：</b> 重度の飲酒日数は両群とも有意に減少したが、群間差は認められなかった。PTSD スコアは、PE+トピラマート群では PE+プラセボ群よりも治療後評価で低かったが、追跡調査では低下が見られなかった。PTSD 診断の喪失と PTSD 症状の有意な変化についても同様の傾向が認められた。副次的評価項目 (抑うつ、生活の質) の変化は両群間で差は認められなかった。</p> <p><b>結論：</b> PE+トピラマートは、実薬投与期間中、PE+プラセボと比較して PTSD 症状の軽減がより顕著であった。トピラマートの追加により、PTSD 症状の軽減はより迅速かつ顕著となり、患者にとって有益となる可能性がある。トピラマートの効果は長期追跡調査では維持されなかったため、トピラマート投与期間の延長や、効果を持続させるための追加戦略が有用である可能性がある。トピラマートは、重度の飲酒日数の割合や副次的アウトカムに関して、PE に対する追加的な利益を示さなかった。</p>		